

2018（平成30年）第2学期 終業式 式辞

校長 中西 朗

長い2学期も本日で終わります。

あっという間でしたが、生徒の皆さん、振り返ってみていかがですか。あの猛暑の残る残暑と台風21号でスタートし、早4ヶ月が経ちました。平成30年も残すところ10日余りです。本日は、2つ話をして式辞とします。

① 1つは、若い世代の頑張りに期待

フィギアスケート（紀平選手16歳）、卓球男子シングル（張本選手15歳）、女子ダブルス（早田、伊藤ペア18歳）、将棋の藤井聡太7段（16歳）など、君たちの世代の人たちが日本で、そして世界で頑張っています。これからの時代は、君たちのような若い世代が主役なのだとあらためて感じているところです。

高校時代に様々なことを学び、感じ、考え、そして悩んでほしいと思っています。そして、将来の自分の姿をポジティブに想像し、夢見ることが、パワーの源となります。頑張ってください。

本校の教育理念は、「県宝から未来へ ～夢に向かって羽ばたこう～」です。

② 2つ目は、元号について

来年5月1日に、新しい元号となります。新元号がいつ発表されるかは関係省庁で検討されているところです。今年が平成の最後の年になります。来年は、平成31年であり新元号の元年となるからです。

ところで、元号は、中国に古くからの歴史（前漢 武帝のときの建元が最初）があります。中国では、約2000年間もの間元号が使われてきました。しかし、清国が滅びたと同時に元号が、廃止されたそうです。日本は、元号においては1300年の歴史があります。中国の2000年には及びませんが、今現在、世界で元号を持つ国は日本だけです。そう言った意味からも、来年の改元の年は、日本にとって記念すべき年なのです。新元号が248番目であります。「2×4が8」と覚えておきましょう。1番最初が、大化の改新の「大化」（たいか）です。193番目が、応仁（おうにん）、210番目が江戸時代の2番目の「寛永」（かんえい）という元号でした。寛永通宝というお金が有名ですね。そして、220番目が元禄（げんろく）、223番目が享保（きょうほう）、236番目が天保（てんぼう）、243番目が慶応（けいおう）です。江戸時代の最後の元号です。そして、244番目が明治（めいじ）となります。このような視点から歴史を学ぶことは、めったにないかもしれませんが、こういう機会に勉強するのも面白いと思います。

生徒の皆さん、新年を迎えるにあたり、気持ちも新たに頑張っていたきたいと思います。皆さんにとって、来年も良い年であることを願っております。

以上で式辞といたします。